

往き還り 足踏むごとに
産土の 神の恵みを
思へ世の人

本田 親徳 ちかあつ

家路の行き帰り

その都度、大地を踏みしめ

て生活するものとして

大地の神様の恵みを忘れ

てはならない。

本田親徳

明治時代の神道家。

文政五年（一八二二）一月、薩摩国

川辺郡加世田郷武田村（現鹿児島

県南さつま市）の本田主蔵の長男

として生まれた。幼少期は漢学と

剣術を学ぶ。天保十年（一八三九）

十八歳のとき、会沢正志斎に入門。

会沢門下として和漢を学び同時

に平田篤胤の家にも出入りする。

天保十四年、狐憑きの少女に出会

い憑霊現象を実見。それ以来、霊

学研究を始め、神霊を感合する道

を求めた。

神道知識への誘ひ「人形（形代）」

神道では日常生活で知らず知らずのうちに犯した過ち、罪や穢れを祓い清めるための神事「大祓」があり、毎年六月と十二月の末日に行われます。大祓では紙で作った人形（形代）を用いたお祓いがあります。人形に名前と年齢を書き、自身の身体を撫でて息を吹きかけ、心身の罪穢を人形へ移し、神社へ納めます。納められた人形は大祓を経て海や川などに流したり忌火で焚き上げることで祓い清められます。

